

アドベンチャーキャンプ in GIFU

～飛驒の山、美濃の水「飛山濃水」2018～



目標に向かって、粘り強くやり抜く力の育成を目指す長期キャンプ

長期自然体験活動事業報告書



【主催】 国立乗鞍青少年交流の家

【協力】 岐阜市少年自然の家

はじめに

アドベンチャーキャンプ in GIFUも今年で3年目を迎えました。この教育事業は飛騨の山（乗鞍岳）を登り、美濃の水（長良川）を源流近くから辿ることで、長期の宿泊研修を通し、初めて出会う仲間たちとの協調性を育みながら、岐阜県の大自然を体感し、目標に向かって、粘り強くやり抜く力の育成を目指します。毎年少しずつ改善を加え今年も8泊9日で実施することになりました。長期集団宿泊活動における体験活動により子供たちには大きな成長が期待できます。体験活動による子供たちの「生きる力」を測定したところ、キャンプ実施後の変容度が非常に高かったこともその証左であると考えられます。最終日に行った閉講式には、やり遂げた自信と笑顔にあふれた18人の姿があり、長期宿泊研修の意義を改めて実感できました。

今年はいまだかつてない猛暑日となり、行程について危ぶむ声も出ました。高山病や熱中症などへの対応に当たっては特に細心の注意を払いました。8日目の百ヶ峰登山の行程を減らしたのは、安全面に配慮した結果のことです。ご了承くださいたいと思います。

保護者の皆様には、このキャンプにお子様を参加させるにあたり、何かと不安があったことと思いますが、終了後のお子様の姿を見て参加させてよかったという気持ちを持たれたのではないかと思います。また参加した皆さんは、このキャンプでの貴重な体験が今後の人生に役に立つことと思います。

最後にこの事業実施に当たり、ご支援、ご協力をいただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

平成31年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立乗鞍青少年交流の家 所長 徳永章人

目次

はじめに	1
アドベンチャーキャンプin GIFUの日程および行程図	2
活動の様子	3
参加者・保護者のとらえと変化	7
日々の振り返り	8
お世話になった皆様、スタッフ	10

アドベンチャーキャンプ
in GIFU
2018

R

アドベンチャーキャンプin GIFUの日程および行程図

日程【8泊9日】

	期 日	行程内容	活 動 内 容		宿泊場所
			午 前 ・ 午 後	夜	
事前説明会	7月15日 (日)	出会い 仲間作り	日程説明等 アンケート記入 熱中症予防講座 持ち物の説明 質疑応答 【保護者同席】		
1 日 目	7月28日 (土)	出会い 仲間作り	【開講式】 アイスブレイク 活動準備		① 国立乗鞍 青少年 交流の家
2 日 目	7月29日 (日)	登山の 行程	国立乗鞍青少年交流の家～丸黒山～交流の家 (距離約12km) (標高差約446m)		① 国立乗鞍 青少年 交流の家
3 日 目	7月30日 (月)	登山の 行程	登山(畳平～剣ヶ峰～畳平) (距離約6.5km) (標高差約324m)		① 国立乗鞍 青少年 交流の家
4 日 目	7月31日 (火)	徒歩の 行程	分水嶺公園(ひるがの高原)見学 徒歩でキャンプ場へ移動(徒歩 約9.6km) 川遊び		③ 鷺ヶ岳立石 キャンプ場
5 日 目	8月1日 (水)	徒歩の 行程	鷺ヶ岳立石キャンプ場～長良川鉄道・北濃駅(徒歩 約15.3km) 北濃駅～美並刈安駅(長良川鉄道 37.3km) 美並刈安駅～粥川バンガロー村(徒歩 約5km) 川遊び		④ ふくべの里 粥川 バンガロー村
6 日 目	8月2日 (木)	徒歩の 行程	粥川バンガロー村～美並刈安駅(徒歩 約5km) 美並刈安駅～美濃市駅(鉄道 17.1km) 美濃市駅～岐阜市少年自然の家(徒歩 約13km) 野外炊事		⑤ 岐阜市少年 自然の家
7 日 目	8月3日 (金)	ゴムボート の行程	岐阜市少年自然の家～武儀川(徒歩 約3.5km) 「ゴムボートで川下り」の事前研修及び「川遊び」 武儀川～岐阜市少年自然の家(徒歩 約3.5km)		⑤ 岐阜市少年 自然の家
8 日 目	8月4日 (土)	ゴムボート の行程	岐阜市少年自然の家～関市千疋橋下流(徒歩 約6km) ゴムボートで川下り 関市千疋橋下流～岐阜市千鳥橋下(距離約6km) 長良橋下～百々ヶ峰(途中まで)(徒歩 約4km)		⑤ 岐阜市少年 自然の家
9 日 目	8月5日 (日)	まとめ	【閉講式】 参加者・ボランティアスタッフ感想発表 手紙渡し・スライドショー鑑賞等 【保護者同席】		

飛騨の山コース



① 国立乗鞍青少年交流の家



② 乗鞍岳剣ヶ峰

登山行程



出会い・仲間作り

7月15日(日)・7月28日(土)

■ ねらい

これからの活動を理解し、キャンプに取り組む意欲を高めるとともに、初めて出会った仲間たちと協力し合う気持ちを養う。

7月15日(日)

事前説明会

- 日程や準備物の説明
- 熱中症予防講座
- 自転車の練習
- 質疑応答



↑ 事前説明会。
みんな、ちょっと緊張
気味。

↓ 熱中症予防について
学びました。



↑ アイスブレイク1
(人間知恵の輪)

↓ アイスブレイク2
(じゃんけんゲーム)



7月28日(土)

キャンプ初日

- 開講式
- アイスブレイク
- タベのつどい
- 登山の学習
- 登山用荷物の準備

宿泊：国立乗鞍青少年交流の家



高山駅から交流の家に向かいます。ワクワク。



交流の家に到着。荷物が多くてたいへんです。



もうすぐ開講式。ちょっとドキドキ。



キャンプの目標を決めます。



チームフラッグに手形を押しています。



完成したチームフラッグ。



タベのつどいで旗係をしました。団体紹介もします。



みんなと初めての食事。行儀よく食べました。



登山の荷づくり。コンパクトにまとめます。



今年度は虫よけネットを使用します。



グループ発表。1日の振り返りを発表します。



翌日の登山に備えて早めに就寝準備。眠れるかな？

今日の自分

- ・最終日には「もっと一緒にいたい!」と思えるようにしたいと思います。
- ・自分の行動に責任を持って行動できるようにしたいです。
- ・スケジュールにそって時間通りに行動できたのでよかったです。
- ・明日の登山の準備の時にはいつどんな物が必要かを考えてしっかり準備することができました。

今日の自然

- ・一気に周りが白くなったかと思うとなんと!雲の中だった。そして7:30ごろには周りの木々が全く見えなくなった。そして夕焼けがとてもきれいに見えた。
- ・ここは下界よりもすずしいので気持ちよかったです。
- ・風が強くて雲がすごく速く移動していて、きりの中に入った感じがさっそくぼうけんしている感じがした。

登山の行程

7月29日(日)～7月30日(月)

■ 行程のねらい【飛驒の山】

標高3026mの乗鞍岳剣ヶ峰に登頂して飛驒の山を体感する。また長い登山道を上り下りすることにより、強い体力と精神力を養成するとともに、仲間との協調性を身につけ、全員で登頂の達成感を味わう。

7月29日(日)

キャンプ2日目

丸黒山(標高1956m)

徒歩合計12km
標高差446m



交流の家の玄関からスタートです。



登山道は1列で歩きます。虫よけネットをかぶって。



枯松小屋で休憩。ここからが険しくなります。



「根性坂」さらに険しい上り坂です。ゆっくり一歩一歩!!



日影平で休憩。水分をします。



「ガンバル坂」急な上り坂です。ガンバレ!



あと少しだ!



山頂に到着! フラッグをもって記念写真。



全員無事到着。明日も頑張るぞ〜!!



がんばった分、おにぎりがおいしい。



交流の家が見えました。

7月30日(月)

キャンプ3日目

交流の家からバスで移動
豊平(標高2702m)
剣ヶ峰(3026m)

徒歩合計6.5km
標高差324m



2702mの豊平からスタートです。講師の瀬木先生のお話を聞きます。



雪が残る池がありました。



肩の小屋で休憩。昼食を食べます。



剣ヶ峰の山頂が見えています。がんばれ!



全員で剣ヶ峰山頂 3026mでの記念撮影。やったあ〜!



険しい岩場。ゆっくり気を付けて下りました。

今日の自分

- ・少しきつかったけれど頂上まで登った。きつい斜面がたくさんあったけれども、仲間と協力し登り切った。
- ・今日は友達が遅れてしまった時に「がんばれ」と声をかけることができた。転びそうになった時に声をかけたり、はげまし合いながら丸黒山に登ることができた。
- ・下山は行きよりもつまずく数も多くなり大変になりました。でも、ここでもMさんや、K、S、Yに助けてもらって無事下山できました。
- ・「こすべるよ」などの声がかけたのでよかったです。Tさんがたくさん声をかけていたのですごいと思いました。

今日の自然

- ・木の種類が(登山道の)左右でちがった。時々上を見上げると、太陽の光が葉に当たって差し込んできた。とても涼しかった。
- ・まだ雪がのこっている部分があって、まだ寒いなと思いました。剣ヶ峰に登っているときに、赤色や黒色や白色の石があっておもしろいなと思いました。
- ・山を登っていると、右が人工林だったり、左が自然林だったり、右左で違うということがわかった。
- ・草の丈が高かった。ささもたくさんあった。山頂は23℃くらいしかなかった。

徒歩の行程

7月31日(火)～8月2日(木)

■ 行程のねらい [美濃の水]

日本三大清流のひとつと言われる長良川の清らかな川の流れや周囲の自然を体感しながら川沿いを迎るとともに、全員で長距離を歩くことでチームワークを高め、自分自身の力を発揮し、目標へ向かって努力することの大切さを養う。

7月31日(火)

キャンプ4日目

交流の家からバスで移動
郡上市立高鷲北小学校
分水嶺公園
鷲ヶ岳立石キャンプ場
よーらく到着(夕食)
湯の平温泉
宿泊：鷲ヶ岳立石キャンプ場

徒歩合計10.2km



交流の家出発前に記念撮影。



分水嶺公園で分水嶺について学びました。



鷲ヶ岳立石キャンプ場を目指して出発します。



長い坂道をみんなで歩いていきます。



無事到着することができました。



沢山歩いたので、お腹が空きました。

8月1日(水)

キャンプ5日目

鷲ヶ岳立石キャンプ場
郡上市立高鷲北小学校
長良川鉄道 北濃駅～美並対安駅
粥川バンガロー村
子宝温泉
宿泊：粥川バンガロー村

徒歩合計20.1km



鷲ヶ岳立石キャンプ場の職員の方に挨拶をして出発です。



日本一高い高速道路の下を歩きます。



北濃駅に到着。ここから長良川鉄



道で美並対安駅まで乗車します。電車の中で疲れを取り、再び歩き始めます。



粥川バンガロー村の途中の水場で涼みます。



日差しが暑かったですが、みんなで到着することができました。



いつもよりも沢山食えることができました。

8月2日(木)

キャンプ6日目

長良川鉄道 美並対安駅～美濃市駅
美濃市立藍見小学校
岐阜市少年自然の家
宿泊：岐阜市少年自然の家

徒歩合計16.6km



キャンプ最後の電車移動です。



長良川を見ながらみんなで歩きます。



岐阜市少年自然の家までの最後の山道です。



無事到着し、みんなで協力・分担しながらカレーを作り始めます。



とても美味しく作れたのですくなくなくなりました。



食べた後はみんなで食器や鍋を隅々まで洗います。



研修室で今日の振り返りをしました。

今日の自分

- ・大変長い距離を歩いた。途中で弱音をはこうとしてしまったが、ぐっとこらえた。
- ・すれちがう人やキャンプ場の人にしっかりとあいさつすることができた。

今日の自然

- ・700mおりに気温が相当変わった。
- ・木の音、水の音両方ともいい音だった。
- ・剣ヶ峰と違って大きくて高い木がはえていたけど、人工林の方が自然林よりもたくさん生えていた。

ゴムボート行程

8月3日(金)～8月4日(土)

■ 行程のねらい [美濃の水]

長良川に直接触れることで「美濃の水」を体感し、チームのみんなと協力しながら安全に長良川を下り、百々ヶ峰登山で今まで迎った道を振り返る。

8月3日(金)

キャンプ7日目

岐阜市少年自然の家

武儀川

ボート研修

川遊び

岐阜市少年自然の家

親からの手紙

親への手紙

宿泊：岐阜市少年自然の家

徒歩合計8km



川下りに向けて朝食をしっかり摂ります。



軽登山からスタートです。



安全のため、フローティングベストの付け方から指導を受けます。



みんなで協力して空気を入れます。



ボートの座り方や漕ぎ方、避難の仕方を陸上で練習します。



実際に川に出て練習しました。



昼食後は川遊びをしました。様々な水中生物を捕まえました。みんなで捕まえた生物の観察をしました。



次の日は川下り本番。「親からの手紙」を読み、いつも言えない気持ちを手紙に書きました。

8月4日(土)

キャンプ8日目

岐阜市少年自然の家

関市千足橋下流

ゴムボートで川下り

千鳥橋

百々ヶ峰

宿泊：岐阜市少年自然の家

徒歩合計6.5km
川下り11km



川下り本番に向けてしっかりとラジオ体操を行いました。昨日学んだことを思い出しながらみんなで準備を始めます。



笑顔で川下りスタートです。



声を掛け合い、難所を通過していきます。



ゴールが近づいてきました。



無事に川下りを終え、最後の登山がスタートです。



緑に囲まれた中を歩いていきます。



時間の都合で目標の百々ヶ峰山頂までは行けませんが、見晴台でゴール！



みんなで過ごす最後の夜。チームフラッグに掲げた目標について話し合い、発表しました。

今日の自分

- ・今日はみんなで協力する場面がたくさんあったなと感じました。ボートをふくらますこと、そしてこぐこと。特にボートをこぐのはみんなの息が合うときもよかったし楽しかったです。
- ・もうあと1日しかないので、1分1秒を大切に、1日生活をしていきたいと思っています。
- ・このキャンプにこられたのもお母さんのおかげで、ここまでがんばってこられたのは仲間が協力してくれたからなので、本当にみんなに感謝したいです。

今日の自然

- ・岸より近くても足がとどかない所や水深2m以上あるところがあった。
- ・川下りの時に川の水の量がだいぶ減っていた。
- ・川はとても冷たくて、やっぱり自然っていいなと思いました。そしてこれからも川を大切にしたいと思いました。

☆生きる力の変容（IKRの結果）

○評価方法：「子どもIKR評定用紙（簡易版）」を用いた質問紙調査

①事前（事前説明会：7月15日） ②事後（事業最終日：8月5日）

○「子どもIKR評定用紙」とは？

「生きる力」を測定するための28項目からなるアンケート用紙である。

質問は「いやなことは、いやとはっきりいえる」といった心理的社会的能力（14項目）、「自分勝手な、わがままはいわない」といった徳育的能力（8項目）、「早寝早起きである」といった身体的能力（6項目）の3つの能力で構成されている。質問項目ごとに「とてもよくあてはまる（6点）」から「まったくあてはまらない（1点）」の6段階で回答し、その合計得点で「生きる力」を測る。

「生きる力」を構成する指標



「生きる力」の変容（得点範囲：28～168点）

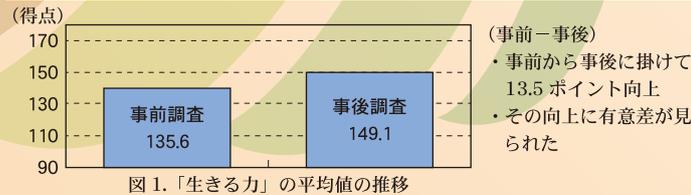


図1. 「生きる力」の平均値の推移

「徳育的能力」の変容（得点範囲：8～48点）

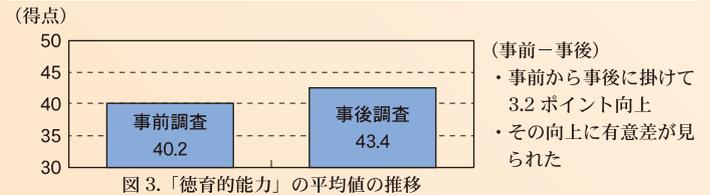


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

「心理的社会的能力」の変容（得点範囲：14～84点）



図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

「身体的能力」の変容（得点範囲：6～36点）



図4. 「身体的能力」の平均値の推移

【考察】

「生きる力」「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」全てにおいて有意に向上した。特に「生きる力」については13.5ポイント、「心理的社会的能力」については7.3ポイントと大きく向上した。本事業の効果が十分にあったと考えられる。登山、徒歩、バンガロー泊、川下りとそれぞれのプログラムを仲間と声を掛け合いながら自分たちで個人としてもチームとしても目標を達成してきた自信と達成感が影響していると考えられる。

☆事前・事後アンケート（参加者・保護者）からの言葉

参加者

- ◇自分がどこまでやれるのか、どこまで成長したのかを自覚して最高の夏休みにしたい。
- ◇仲間に自分の気持ちを伝えることがなかなかできない。このキャンプで仲間と協力するときに自分の気持ちを伝えることができるようになりたい。
- ◇心を強くしたいと思っている。
- ◇いつも周囲に頼ってばかりいるので自分で考えて行動し自分の力で乗り越えたい。

保護者

- ◇このキャンプを通して自覚性、協調性、諦めない心を身に付けてほしい。
- ◇私自身、小学校高学年の時に「チャレンジ in 東濃」という10泊11日のキャンプに参加させていただき年月を重ねた今でも思い出として心に残っています。楽しいこと、苦しいこと、辛いこと、仲間と協力し乗り越えていく中で自分に自信をもち、将来の生き抜く力をつけてほしい。
- ◇なかなか日暮れまで思い切り遊ぶという状況が許されない時代、環境になり少しずつ過保護になってきました。そして知力・体力の限界に挑戦する機会さえ子ども自ら選ぶというより親が選ぶようになってしまったと思っている。体力の限界を知ること、自然をそのまま感じる、知らなかった人とも仲間になれること、これらを体験することは人生を豊かにしてくれると信じている。
- ◇長い道のりの登山、徒歩、川下り、全ての道のりで涙が出てしまうほど辛い思いをするのではと心配ですがやりきることができた時の喜びや本人でないと味わえない達成感、仲間との思い出作りを是非体験してもらいたいと思います。



参加者

- ◇家の生活ではアドベンチャーで学んだ感謝を生かしています。母親に作ってもらっているご飯は感謝の気持ちをもって残さず食べるようになりました。他にも学んだことはたくさんあるのでこれから協力や挑戦なども実践していきたいです。
- ◇新しい仲間と「協力」「挑戦」「成長」「感謝」「尊敬」「信頼」「覚悟」「責任」「人間性」の9つのキーワードが達成できるように1日1日を仲間と大切に過ごすことができたと思います。そして9つのキーワードを普段の生活でも大切にして過ごしたいと思っています。

保護者

- ◇どこことなくふわふわして自信なさげな様子でしたがキャンプを終えた後、逃げ腰の様子は気にならなくなりました。些細なことですがこれまで「何食べたい？」「宿題いつやるの？」と聞いてものりくさりボーとしていましたが現在は「〇〇がいい。」「〇時から。」と語尾まではっきり答えます。仲間に助けられ、自分も助ける、協力する、やり抜く等たくさんさんの経験をさせてもらい自信がついたのではと想像しています。
- ◇帰りの高速道路では娘はずっと泣いていました。もっともっとキャンプの仲間と一緒にいたかったそうです。夜までチームの帽子を被っていました。無事キャンプを終え、いろいろな感情が一気に溢れたようでした。9つの言葉を意識し、キャンプに参加した後は「ありがとう。」とよく言うようになりました。日常の些細なことに対し「ありがとう。」とよく言うようになりました。周囲の人まで優しい気持ちになり見習おうと思います。

☆チームフラッグの作成

【方法】

- 9つのキーワードの説明。
- 全員の投票で大事にしたい言葉を上から順番にひし形に並べる。理由も聞く。
- 周りに1人1人がチームフラッグのキーワードを確認しながら誓いの手形をつけて、横に個人目標を記入し、顔写真を貼りつけた。
- プログラム行程の1つ1つのゴールではチームフラッグと共に記念撮影に参加者と一緒に歩み続けた。心理的にも一日の終わりの区切りの合図ができて良かった。
- 夜のグループワークや閉講式でも必ず掲げて視覚的にも振り返りに役立った。

【参考図】



☆毎日のふり返り(グループ内発表)、日誌の様子・スタッフ・ボランティアからの一言

- 日誌のふり返りには1日の感想を書くのではなく初日のチームフラッグで作成した9つの大切にしたいキーワードの中から1つ(もしくは2つ)選んで、なぜその言葉を選んだのかを記入することで明確にした。また、今日の自然や明日への自分に向けての記入欄を設け自分自身と向き合う時間を設けた。4~5人グループ内でお互いに発表しあい友達思いや目標を共有しあうことで相互理解を図った。
- スタッフ、ボランティアの中から参加者への言葉掛けを毎日変えることで、視点を変えた今日の良かったことや課題点、明日に向けて、など伝えることができた。参加者は真剣な眼差しで話を聞いたりメモを取ったりしていた。



☆親からの手紙・親への手紙

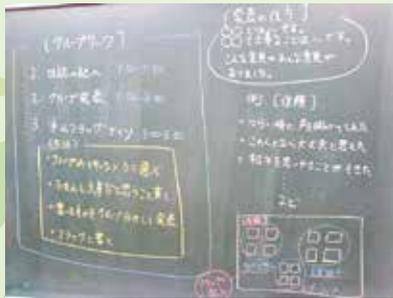
親からの手紙にビックリしながらも嬉しそうな表情で静かに読んでいた。家族と離れて9日間過ごすことも小学生にとって大きなアドベンチャーです。途中で家に帰りたいと言うこともなく、まだずっとこのキャンプを続けたいと話すメンバーでしたが心の奥では寂しい気持ちを抱えて毎日頑張っていたのだらうと思います。普段、保護者にとっても恥ずかしくてなかなか口には出せないことも手紙で伝えられることもあります。このキャンプで挫けずに頑張っているか気遣う言葉や、産まれてきた時の気持ちや小さい頃のエピソード、これからどんな人になってほしいかの想いなど真剣に手紙を読みながらこれまで当たり前すぎて気づかなかった家族の愛情や、感謝の気持ちを感じてくれたのではないかと思います。



☆キーワードを深める・グループ発表(付箋を使った全員参加型)

【8日目】(方法)

- ① 4～5人グループでお互いの顔が見える円になる
- ② 旗のキーワード9つのうち2つを選ぶ
- ③ 選んだキーワードで具体的な行動を考える
(できたこと・これからチャレンジしたいこと・大事なこと)
- ④ 付箋に大事なことを書き出し、用紙に貼る
- ⑤ 出てきた意見を話し合いながら意見のグループ分け
(ボランティアは見守り+時々助言)
- ⑥ 代表者発表(キーワードの定義づけ)
例：○○とは〇〇である。〇〇で大事なことは〇〇です。
- ⑦ 定義づけた言葉をフラッグに記入して完成



【グループワーク方法(15分)】

- 4～5人グループでお互いの顔が見える円になる(1分)
(書記・発表者は日替わりで交代する)
- 旗のキーワード9つのうち1つを選ぶ(1分)
- 選んだキーワードで具体的な行動を考える(5分)
(できたこと・これからチャレンジしたいこと・大事なこと)
付箋に大事なことを書き出し、用紙に貼る(1人2～3枚)
- 出てきた意見を話し合いながら意見のグループ分け(5分)
(ボランティアは見守り+時々助言)
- 代表者発表(3分)

【キーワード】

協力	責任	覚悟
信頼	感謝	尊敬
挑戦	成長	人間性



【役割分担】 全員が自分の仕事を責任もってやったので掃除や野外炊飯ができた。
【あきらめない】 このキャンプに参加できなかった人の分も責任をもってやりきる！
【積極性】
【1人1人の思いを感じる力】



【協力】
【声を掛け合うこと】
【仲間と力を合わせる】
【1人だけで頑張るのではなく皆と頑張る】
【仲間が困っている時や辛い時に助ける】

【努力できる人になる。】
【自分がされて嬉しいこと、カッコいいと思う姿、態度を身に付けようとする心】
【人が見ていない所で周囲のために頑張れる人】



【このキャンプをやり遂げる】 絶対に登山や徒歩、ポートなど辛い場面で諦めそうになってもやりきると心に決めて気持ちを強く持ちながら毎日のキャンプに挑んだ。

【覚悟】
 覚悟は、このキャンプをやり遂げることで

【信じ合う】 この仲間なら一緒に目標を達成できると信じ合うことができた。
【声掛け】 登山や徒歩行程など辛い場面の時に仲間に声を掛けたり掛けてもらったりお互いに信頼しながら行動することができた。



【他のメンバーのことを思いやり助け合ったり行動する】
【人のために自分から動いて助ける】
【お互いを認め合うこと行動】

【心と体の成長】 特に心の面で諦めないこと、友達と本音で話し合えるようになった。皆に甘えてばかりだったけど今では自分でや仲間がいれば大丈夫と思えるようになった。
【色々な事にチャレンジする勇気がついた】



【諦めない】 何事にも最後まで諦めないことが大事だと実感した。
【全力】 自分の全力を出し切った時。
【勇気】 失敗するかもしれないけれど挑むことで強くなれる。
【人前に立つ】 ラジオ体操で勇気を出して自分から代表で前を出た。

【挑戦】

【関わってくれた人に「ありがとう」と言葉にできること】 このキャンプに参加させてくれた両親、出会った友達、仲間、ボランティア、スタッフさん本当にたくさんの人に感謝。



☆閉講式での学んだことや感想発表

- 閉講式では迎えの保護者が見守る中、参加者一人一人が皆の前に立ち、アドベンチャーキャンプを通して学んだことや思い出、これからの意気込みなど力強く発表しました。中には、「大学生になったらボランティアのメンバーになって参加したいと思います。」と話す参加者も見られ、将来の目標を見つける姿も見ることができたのはとても嬉しい言葉だった。
- 閉会式では前日に書いた親への手紙やお世話になったボランティアリーダーへの手紙を渡す場面を設け、お互いに涙を流すとても感動的な一幕が見られた。
- ボランティアリーダーの中には3年間参加してくれた者もいた。参加者にとってはもちろん変化や成長が大きくみられたがボランティアリーダー、そして我々スタッフ陣にとってもこの9日間は感情が揺さぶられ忘れることができない体験であった。
9日間を振り返るスライドムービーでは、画面をじっと見つめこんなことやあんなことがあったなと懐かしむように笑ったり歓声をあげたりしながら楽しむ姿が見られた。
- Tシャツの背中にはたくさんの寄せ書きが見られ、最高の仲間ができたと同時に別れを惜しむ姿が印象的であった。

アドベンチャーキャンプ in GIFU ～飛騨の山、美濃の水「飛山濃水」2018
～の実施に際しては、たくさんの関係機関や団体・企業の皆様より後援や協賛、御
協力をいただきました。皆様からの温かいご支援のおかげで、充実した事業を行う
ことができ、無事に終了することができました。本当にありがとうございました。

「アドベンチャーキャンプ in GIFU」スタッフ一同

プログラム指導

【乗鞍岳登山】 講師 瀬木紀彦氏（日本山岳協会山岳指導員）
【野外炊事・川遊び・ゴムボートで川下り】 岐阜市少年自然の家
〒501-2502 岐阜県岐阜市山県北野2081
TEL 058-229-2888 FAX 058-229-2933

協 力 岐阜市少年自然の家
後 援 高山市
岐阜県・富山県・愛知県・長野県の各教育委員会
高山市・飛騨市・下呂市・白川村の各教育委員会
社会福祉法人 高山市社会福祉協議会、飛騨高山乗鞍高原連絡協議会

協 賛 大塚製薬株式会社 名古屋支店 岐阜出張所

宿泊施設 国立乗鞍青少年交流の家 岐阜県高山市岩井町913-13
鷲ヶ岳立石キャンプ場 岐阜県郡上市高鷲町鷲見鷲ヶ岳
ふくべの里 粥川バンガロー村 岐阜県郡上市美並町高砂
岐阜市少年自然の家 岐阜県岐阜市山県北野2081

休憩施設 郡上市立高鷲北小学校、郡上市立高鷲小学校、美濃市立藍見小学校

アドベンチャーキャンプ in GIFU

～飛騨の山、美濃の水「飛山濃水」2018～ スタッフ

国立乗鞍青少年交流の家

企画指導専門職 新津尚治、北平明美、井川拓哉
事業推進係 勝田将揮、飯村慎一

ボランティアスタッフ（五十音順）

奥村楓生、上出尚輝、續木哲平、
中川歩季、中谷健吾、福田慶星



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立乗鞍青少年交流の家

〒506-0815 岐阜県高山市岩井町 913-13
TEL 0577-31-1011 FAX 0577-31-1025
URL <http://norikura.niye.go.jp>